

開発教育を取り入れた日本語クラス実践

河内 千春

日本語で「地球の問題」を考える 5-6

この科目は、2010年度春学期からテーマ科目として実施しており、毎回10人前後の学生が受講している。この科目について、講義要項には次のように書かれている。

よりよい地球社会作りに参加するため、今、地球上で起こっているさまざまな問題（貧困・教育・人口・環境など）とその解決に向けての取り組みについて、ミレニアム開発目標を中心に、日本語でどのように表現されているかを知り、問題解決に向けて自分ができることを考え、日本語で表現する。以下、この科目（クラス）について詳しく見ていきたい。

1. なぜこのクラスを行なうことになったか

約20年前のことになるが、JICA研修センターでの日本語教育の仕事を通じて途上国に関心を持つようになり、途上国の子供たちの現状を知り、何か支援できることはないかと考えていた。たまたま新聞広告で国際NGOプラン（当時の名称はフォスター・プラン）を知り、支援を始めた¹⁾。

その後、途上国支援が「開発教育」という教育分野の一つであることを知り、ワークショップなどに参加してみた。そこで、「開発教育」とは異文化コミュニケーションの実践であることに気づき、日本語教育にも活かせるのではないかと思った²⁾。

2007年度春学期に担当していた読解6レベルのクラスの中で、「開発教育」関連の教材の読解を取り入れてみた。学生たちからの反応がよかったので、その後は、ミレニアム開発目標を読解の中心とするようになった。2010年度からのテーマ科目として、上記内容の企画を提出し採用され、テーマ科目としてクラスを行なうことになったのである。

2. 意図 ねらい

このクラスは、5-6レベル、つまり、中級から上級へ橋渡しとなるレベルであり、一番必要なのは、語彙を増やすことであると考えられる。学生たちにとっての未知の内容を教えるのではなく、ある程度知っていることが日本語でどう表現されているのかを理解させることである。日本語で理解できるようになれば、日本語で考えることもできるようになるであろう。NGOの活動を紹介することもあるが、特定のNGOに参加してほしいというものではない。

3. 授業の流れ

初めに、ミレニアム開発目標の8つの目標と達成状況の表などを示し、全体を把握させる。それ

河内千春／開発教育を取り入れた日本語クラス実践

から、順番に細かく見ていく。例えば、目標1は「飢餓をなくそう」である。まず、『世界がもし100人の村だったら完結編』の目標1についての解説文を読ませる。次に、国連世界食糧計画(WFP)作成のハンガーマップで飢餓の実態を見せる。最近の新聞記事を紹介することもある。2011年秋学期にはソマリアの記事を紹介した。さらに、「世界には食べ物が足りないの?」というマンガ(『世界と地球の困った現実』)を読ませ、問題がどこにあるのかを理解させる。また、「増えつづける人口とくたべもの>」(『世界がもし100人の村だったら3 たべもの編』)を読ませ、使われている日本語の語彙や文型を確認させる。同様に目標8まで続け、貧困の原因や解決方法などについて話し合う。学期中にテスト(漢字の読み方と内容読解)とレポート提出が2回ずつある。

4. 学生の反応など

よりよい地球社会や地球環境を作るために何かをしたいと考える学生が集まったクラスなので、積極的にクラスに参加している。また、自国で途上国支援のボランティアをしたことがある、スタディーツアーに参加したことがある、などの学生もいる。

5. 改善点など

もともと読解クラスだったので、読解に重点が置かれていたが、テーマ科目になったことで、表現活動も加えることにした。授業で取り上げた内容から自分で一つテーマを選び、A4用紙1枚程度のレポートを書き、書いたレポートを口頭で発表するのである。書いたものをそのまま読むのではなく、できるだけ話し言葉に直して読むよう努力する。

2011年度秋学期からは、さらにわかりやすく伝えるために、パワーポイントに要点をまとめて見せるというビジュアル・メディアを加えた発表を行なうことにした。

今のところ、日本人ボランティアは入れていない。国際協力やミレニアム開発目標に関心のない学生では続かないだろうと思われるからである。

注

- 1) 支援者として、地域支援のための寄付を行なうほか、その地域に住んでいる子供との文通や訪問を行なっている。現在は、ホンジュラス西部の村のコミュニティ支援を行なっている。
- 2) 2007年から開発教育ボランティアとして、小学生や中学生への授業、スタディーツアー、ワークショップ企画、イベントの手伝いなどを行なっている。

参考文献

- 池田香代子+マガジンハウス編(2004)『世界がもし100人の村だったら3 たべもの編』マガジンハウス。
- 池田香代子+マガジンハウス編(2008)『世界がもし100人の村だったら 完結編』マガジンハウス。
- 日本国際飢餓対策機構編・みなみななみ(2003)『まんがで学ぶ開発教育 世界と地球の困った現実—飢餓・貧困・環境破壊—』明石書店。